

ラウンドテーブル

「クウ・ネル・アソブ～食う・寝る・遊ぶ～」で 子どもイキイキ！ 活力全開！

企画・総合司会：大橋 節子（学校法人創志学園 学園長）

今回のラウンドテーブルは、子どもたちの重要で基本的な営み「クウ・ネル・アソブ～食う・寝る・遊ぶ～」というシンプルな言葉で表現したテーマで開催した。

最初の話題提供では、井上高光先生（学校法人さつき幼稚園・前理事長）自らが35年間、毎朝30分実践する“触れ合い遊び”ともいえる「じゃれつき遊び」とその効果を長年の保育経験をもとにお話いただいた。話題提供に対して、フロアからも「子どもたちがイキイキと活力に満ちた、毎日を送る」ための実践活動報告がなされた。

大学の教員からは学生が企画・運営する、2歳児～就学前児童対象の「あそびの広場」、「家庭での食育」等の実践例が、保育園からは子育て支援としての園解放の実践が語られた。また、今回学会に初参加した高校生からは「ラインやパソコン依存による、生活習慣の乱れの

実態やその改善」、「子ども達の遊び場の喪失と確保」についての有意義な意見も挙がった。当初のねらい通り、子どもを育む保育者、子どもを見守る保護者、そして未来に子どもを支える大学生や高校生の活発な意見交換を行うことができた。

これらを踏まえ、井上先生より「言葉の叱咤激励だけで子どもは育たない、“早寝・早起き・朝ごはん”の実現を目指し、朝食前に家族で『5分間の本気でじゃれつき遊び』を実行し、ルンルン気分の日を」と結びの提案があり、地域伝承遊びの手作り「竹剣玉」の実演披露には拍手喝采が起こった。

高校生も含め、子どもたちにかかわる全ての人が、改めて『りっぱな人間』について見つめ直し、社会の宝物である子どもたちとのかかわりについて語り合うラウンドテーブルとなった。

話 題 提 供 | 井上高光（学校法人さつき幼稚園 前理事長）



井上先生から、35年間にわたる「じゃれつき遊び」保育実践活動の体験をふまえて、その効果をデータ資料に基づいて紹介。参加教員や高校生を含めて活発な意見交換が行われ、楽しく笑顔があふれる交流の場となりました。